

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	くら・らぼ神辺児童発達支援事業所		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月15日		～ 令和 8年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月15日		～ 令和 8年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お泊り保育、しめ縄づくり、餅つき、野菜の苗植え、収穫等季節ごとに応じた行事をふんだんに開催している。 同社内の児童発達支援事業所との交流を盛んに実施している。	日頃経験できない地域の伝統行事を体験することで地域の文化を学ぶ機会を数多く提供している。 経験を大切にとの思いで季節の行事をふんだんに取り入れている。	充実した行事にするために事前に十分打合せを行う。 子どもたちの創造力を刺激し、感性や想像力の発達にも寄与していくために何に興味があるか観察情報収集し、取り入れていく。
2	支援終了後には必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している。	支援終了後の職員夕礼において振り返りを実施し、その日の出来事、問題点、改善点などよりよい療育内容となっていくよう共有を図っている。	問題行動を応用行動分析を活用し、分析し子どもの理解を図りたい。併せて、ペアレントトレーニング(ティチャートレニング)の視点を取り入れ、職員の資質向上に努めていく。
3	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信している。	定期的に参観日を開催したり、連絡帳、事業所だよりやSNSで日々の活動の様子を伝え、個人に対してlineで一ヶ月に一回写真を送付することで迅速的に保護者に伝えている。 事業所に直接送迎する保護者に、子どもの様子を伝えることにより、成長を共に共感しサポートしている。	保護者の多くは忙しい生活を送っているため、対面でのコミュニケーションには制約がある為、引続きSNSを活用することで、保護者とのコミュニケーションを円滑にすることができ保護者自身が子育てにより関心を持つことを期待できる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会。	ペアレントトレーニングの研修会は開催していないが、ペアレントトレーニングの要素を取り入れ子どもの関わり方について懇談や家族交流会のなかで伝える機会を作っている。	今後、家族に対して研修会を含めどのような形でできるか検討していきたい。また、研修会開催の情報提供をしていきたいと思う。
2	各種マニュアルの周知を職員にはできているが保護者、家族にできていない。 定期的に、避難、救出、その他訓練を実施していることが保護者、家族に認識されていない。	契約の際に、訓練やマニュアルがあることや訓練を実施していることは説明しているが、十分周知できていない。 保護者が事業所で実施されているかどうか認識不足である。	事業所だよりにて予定と報告、SNS等も利用して保護者家族が広く周知できるようにする。
3	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図れていない。	周年祭、もちつきなど南蔵王としての地域住民の方との交流はある。しかし、事業所がある神辺町川北地域の方とは散歩での挨拶や公園に行った際に関わることはあるが、地元の保育園等との交流がない。	地域の清掃への参加や日頃からの近隣の方への挨拶をすることで地域住民の方に認識していただけるよう工夫する。 地域の方を事業所に招き入れる催しを検討したい。 地元の保育園の園庭で遊ばせてもらうなどの機会を作りたい。 並行先の保育園の先生に事業所での対象児の様子を見てもらい、どんなことをしているのか知ってもらう機会を作る